

平成25年度第3回尾張旭市子ども・子育て会議会議録

- 1 開催日時
平成26年3月19日（水）
開会 午後1時30分
閉会 午後3時00分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 3階 講堂2
- 3 出席委員
林陽子、金森俊輔、近藤信綱、加藤多美、秋田啓子、長谷川正、藤田佳代、村瀬美根代、竹門宏美、秋山浩二、恩田路子、高橋秀雄 12名
- 4 欠席委員
小川百合子、山田俊樹 2名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
健康福祉部長 若杉浩二、健康福祉部次長 吉田和仁、
こども課長 萬谷久幸、子育て支援室長 阿部智晶、
こども課長補佐兼こども未来係長 松原芳宣、こども課こども係長 浅野哲也、
こども課保育係長 田島祥三、こども課こども未来係主事 伊藤維希、
株式会社ぎょうせい主査 清水徹
- 7 議題等
 - (1) アンケート調査結果について
 - (2) 事業計画骨子について
 - (3) 次世代育成支援対策地域行動計画分析、評価について
- 8 配布資料
 - ・アンケート調査結果について・・・資料1
 - ・(仮称)尾張旭市子ども・子育て支援事業計画骨子について・・・資料2
 - ・尾張旭市次世代育成支援対策地域行動計画（後期計画）分析、評価について・・・資料3
 - ・基本指針の主な記載事項（計画作成指針関係）・・・参考資料1
- 9 会議の要旨

健康福祉部長	<p>皆さま こんにちは。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、平成25年度第3回尾張旭市子ども・子育て会議を開会させていただきます。</p> <p>わたくしは、健康福祉部長の若杉と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>なお、本日の会議につきましては、お手元に配布しております次第に従い進めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>今現在の出席委員は10名でございますので、過半数の出席をいただいております。従いまして、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。</p> <p>なお、この会議は公開しておりますので、会議の傍聴席を設けてございます。また、会議録を作成し、市ホームページ等で公表をまいりますので、委員の皆さまにはご了承いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、本日の議題に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>それでは、以降の会議の進行につきましては、議長であります林会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
会長	<p>それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、委員の皆さまよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は、2時間程度を目途に進めてまいりたいと思っておりますので、スムーズな会議の進行にご協力をお願いいたします。</p> <p>早速、議題に入ります。</p> <p>議題(1)では、昨年12月に行いました、アンケート調査の結果について、前回の会議では速報値のような形で報告がありましたが、今回は、全体について報告書として取りまとまりましたので、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	(資料1により説明)
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の事務局の説明について、何かご質問があればお願いいたします。</p>

近藤委員	<p>アンケート結果の集計の方法は国からの指示ですか、それともそれぞれの市町村に任されているのですか。</p> <p>また、クロス集計結果は出ていないが、これから特徴的なものが出てくるのですか。</p> <p>それから、資料 1・12 頁の間 10 で父親の帰宅時間を聞く設問で、集計では平均値をとっていますが、例えば 23 時と夜中の 1 時に帰宅する 2 人の父親がいた場合、平均値は昼の 12 時になるのですか、それとも夜中の 12 時になるのですか。</p>
事務局	<p>集計については国から集計の仕方が出ているのでそれに沿った形になります。</p> <p>また、クロス集計は未だ集計できていませんが、報告書はクロス集計を含めた形でまとめたいと思います。</p> <p>問 10 については 24 時間表記で、現状は平均値を記していますが、報告書では何時に帰宅する人がどのくらいいるか分かるものにしたいと考えています。</p>
金森委員	<p>資料 1・34 頁の病児、病後児保育の利用希望が思ったよりも低いですね。利用したいと思わない理由の分析は今回のアンケートにあるのですか、また、アンケートにはなくても要望などは市にきているのですか。</p> <p>利用したいと思わない理由が次頁に載っていますが、具体的にどのように改善したら利用したいと思うのかといったことはありますか。</p>
事務局	<p>今回のアンケートの前提、趣旨は国が全国的に集計をとりまとめるということで雛型が示されています。今先生がおっしゃったように単純に Yes、No で答えるものもあり、その理由、希望について踏み込んで聞くものもあります。</p> <p>また、自由記載欄についてまだ整理できていないためお示ししていませんが、そこに回答された皆様のご意見が入っているかと思っています。自由記載の意見・要望を汲み取っていきたいと考えています。</p>
金森委員	<p>もし要望があれば医師会のほうでも協議しますので、何か決まりましたらお願いします。</p>

近藤委員	<p>金森委員がおっしゃったように、ニーズがあっても、実際に利用したいのか、したくないのか、ニーズがさほどない方も対象に含まれているのか、ということで、本来は層化して抽出してからアンケートを取らなければいけません、全国一律に実施するものなので単純集計になっているという弱点が出ていると思います。</p> <p>尾張旭市としては個人情報まで明らかにすることはできませんが、何かのニーズがあってこういう調査をしてほしいといった場合に、どのくらいまで踏み込んで役に立つものにしてもらえるのかといったことなのかなと思います。</p>
会長	<p>クロス集計がまだということですが、何と何をクロスさせるのかといったことが重要ですね。クロス集計は統計上の常識に沿って実施するという考えでよいですか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
近藤委員	<p>全部クロス集計をしてしまうという考えだと、手間の割には得るものが少ないのではと思われるので、ニーズがあった場合に手早くクロス集計ができるようにデータを保存しておいて、市民や研究される方から問い合わせがあった際に、個人情報に触れない範囲でできるだけ情報を開示しますということをして市として決めておけばいいのかなと思います。</p>
秋田委員	<p>病児保育については、自分も利用して助かりました。おそらく認知度が低いという点と、利用できるかわかっていても、子どもが熱を出すのはその日の朝だったりしますが、事前の登録がされていないと利用できない点だとか、内診を受けてから病児保育で預かるということなので朝病院に連れていくなれば結局会社は休まないといけない点で利用しづらいです。</p> <p>知らないということと、利用したいけど利用できない、実態と合っていないという点があると思います。アンケートの自由記載欄にもあがってくるかもしれません。ただ、制度としてはあるとすごく助かります。</p>
会長	<p>このアンケートは雛型として決まっていたため悩ましいところもありますが、利用したいと思わない理由がはたしてこれが本当なのか、「その他」が第3位であり「その他」の多様性も考えないといけませんね。</p>

会長	<p>続きまして、議題(2)になりますが、前回の会議におきまして、「子ども・子育て支援事業計画」につきましては、子ども・子育て支援法において記載していくこととなる事項と、これまで、市で取り組んできました次世代育成支援対策地域行動計画を引き継ぐ計画づくりとしていく方向性となりましたので、その計画書の構成について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料2により説明)</p>
会 長	<p>ありがとうございました。ただ今の事務局の説明について、何かご質問があればお願いいたします。</p>
近藤委員	<p>この政策と関係ない話ですが、「ゆとり教育」に翻弄されたのが今の若い人達で、社会に出た際にはゆとり世代で役に立たないと言われ、もっと小さい子どもはゆとり教育の反省から急にある学年から勉強が難しくなりました。</p> <p>大人が教育制度を変えようと思えば思うほど、子どもたちは翻弄され身勝手な大人の制度の策定だとなってしまいます。大人が子どもをどう育てたいかというのと同じように、子どもは自分たちがどう育ちたいか、将来どう役に立ちたいかということ吸い上げることができたら理想だと思っています。</p> <p>今回のように国がガイドラインを示して市町村を焚きつけて進めるという話と大きく離れますが、尾張旭では親の意見を聞くことも大事ですが子どもたち自身の考え方を聞く場を設けてほしいです。子どもたちがどう育っていきたいのか、子ども自身が考えている問題点を私たちがどう吸い上げていけるのかが大事だなと思っています。</p> <p>例えば子どもがコンビニの前でたむろしているとかゲームセンターにいるとかいう話を私たち大人はよくしますが、それを実際子どもの立場に立って、なぜそこに行きたくなるのか、なぜそこだと友達ができるのかといったことまで踏み込まないと、本当の子育て支援にはならないと思います。</p> <p>大人の前で話をするのは敷居の高いことなのだろうと思いますが、私たちのほうから一段下がってそういう若い人の気持ちを埋めることを、制度上で細々とした窓口でいいので、尾張旭市として実施することを提案できないかなと思っています。</p>

村瀬委員	<p>この子ども・子育て会議で結論を出していこうとしているのは、例えばお母さんたちがたくさん仕事をしながらいろんな目標を達成したり生産性を高めていったりということが入っていると思いますが、子どもの幸せ感を考えると、例えば先程の病児・病後児保育の話でもお母さんたちに聞くと、なるべくなら自分でみてあげたい、それでなくても子どもはしんどいから、と言います。</p> <p>親子の関係という本来一番最初にあるべきことを一番大事にしたいと思います。生産性とどちらを大切にすることというのを踏まえて議論してほしいと思いました。</p>
会長	<p>どこの市町村でも今のような話は出ていると思います。この子ども・子育て支援事業計画は、国からこういう形の計画に限りなく近いものを作ってね、という考え方なのですか。</p>
事務局	<p>全体の社会的な背景として少子化が進んでいく中で、前回の次世代育成支援対策行動計画として10年間実施してきました。</p> <p>来年度で次世代育成支援対策行動計画は終わりますがまだまだ少子化には歯止めがかかっていない状態であります。新たな制度として幼稚園・保育園を一体化していく施策が主に練られているのが今回の計画です。</p> <p>財源を見直しつつ制度も見直していくということで、まずは子ども、子どもの育ちを中心に計画を作っていくこととなりますが、そこだけでなくワーク・ライフ・バランスとの関係、教育との関係といった部分も子どもが育っていく中ではお互い連携していくものとなります。</p> <p>市としては、子ども・子育ての計画としてこの計画を作っていますが、他にも総合計画を中心として教育振興計画、男女共同参画プランといった他の事業計画もあるので、その他の計画と連携、調和を図ったものにしたいと思います。</p> <p>国が求めている幼・保の問題だけでなく、前回の次世代計画からの引き継ぎ、仕事・教育との関係との調和をどうするかが難しいと考えており、今後素案等を検討していく中でご意見をいただきたいと考えています。</p>
会長	<p>それでは、子ども・子育て支援事業計画につきましては、今後、この骨子に沿って作成を進めていきたいと思います。</p> <p>議題(3)は、支援事業計画の作成にあたり、次世代育成支援対策地域行動計画についての分析・評価について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3により説明)</p>

会長	ありがとうございました。ただ今の事務局の説明について、何かご質問があればお願いいたします。
藤田委員	ファミリーサポートセンターの援助会員が不足しているということですが、現在どのくらいの会員がいるのですか。
事務局	前年度の実績は、援助会員は76名、依頼会員529名、両方会員が112名で、今年度はもう少し変動しています。 先日も市の広報に援助会員の募集ということで記事を掲載しました。先週の土曜日にも会員登録説明会を開催し、地道に会員を増やせるようにしたいと取り組んでおります。
会長	24年度実績は前の会議で承認いただいておりますが、25年度実績はまた報告されるということによいですか。
事務局	追って報告いたします。
会長	それでは、次第3「その他」について、何かございますか。
事務局	(参考資料1により説明)
会長	ありがとうございました。事務局より、国の子ども・子育て会議の資料の説明がございましたが、よろしいですか。
近藤委員	今回の計画はタイミング的に国がある程度示して市町村が作るという構図ですが、本来は末端が作って国が吸い上げていくという流れをメインにするほうが良いと国の人達も感じていると聞いています。 「ゆとり教育」の時も実施前に実験校で研究が重ねられましたが、そこではなぜか学力の低下は全くないという結果が出てしまいました。国がそういう結論を要求しているだろうと推測し教育委員会、学校、現場の先生という構図で日本中で実施してしまったため実際には学力低下が後で出てきました。 子育てに関しては、制度をいじりたいというのはいろいろな政党も目玉にするため国の政策としてありますが、今回は間に合わなかったとしても次回こういうものがあれば、できるだけ市町村の意見を国にぶつけるという気概を持ってほしいです。尾張旭市として国に伝えていただけたらと思います。
高橋委員	大人の考えで進めるのではなく、子どもの意見、子どもの側からの視点を大切にしたいです。子どもが参加する会議も考えてよいのかなと思います。 また、数としては少ないですが父親の就労状況で働いていない人がいます。ある程度お子さんの年齢が上の父親が、働いていないがすぐにでも働きたいという回答が見受けられます。 中日新聞でも子どもの貧困について掲載されていたが、そういう問題も捉えていければと思います。

会長	ありがとうございました。それでは、次回会議について、事務局よりお願いします。
事務局	次回の会議につきましては、来年度となりますが、予定では5月頃の開催を予定しております。出来るだけ早くに予告案内をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	本日は、長時間に渡り慎重にご審議いただきありがとうございました。これをもちまして、平成25年度第3回尾張旭市子ども・子育て会議を閉会いたします。皆さま議事進行にご協力いただき、大変ありがとうございました。